

2014年 スタッフ 今年の一言

あけましておめでとうございます。新年早々友人の話からはじめますが、親しい友人に区役所勤務の公務員がいます。同い年の彼女が最近「物覚えが悪くなった」とぼやくようになりました。数年ごとに配属先が変わるから、たとえ不惑を過ぎても新人として新しい業務に就き一からすべてを覚えなといけません。年をとるにつれてそれが難儀になってきたというのです。

彼女と比べたら自分の方が状況は悪いはず。真っさらから新しいことを覚える機会がほとんどなくなっているですよ。仕事の上ではミスを回避する方法が身に付いて、メモをつけたりマニュアルを作ったり。丸暗記が必要な場面は皆無。これでは時々意識的にストレスを与えて活性化しないと頭が錆びていく一方かもと心許なくなりました。

なれば、と昨年は簡単な試験に挑戦してみました。やはりというか、予想以上に暗記力が低下しているのが身にしました。何回読んでも、ノートに書き写しても覚えられない。幸い試験の結果はスレスレで合格でしたが、放っておいたら右肩下がりとは必定。定期的にカンフル剤を打たないと豆腐よりもやわらかい頭になりそうです。今年は縮こまった脳味噌を叩き起こすような刺激を探して挑戦しましょう。全く普段使わない分野の脳をどう活性化するか？ てはじめに小学生の算数の教科書でも読んでみましょうか。ただし刺激することに意義があるので、成果報告はご容赦ください。

「来者可追」(らいしゃ おうべし)。過去のことは変えられないけれども、将来のことは追いつくことができる、今態度や行動を改めればまだ間に合うという、論語に出てくる言葉です。使わずに錆びつかせた分は仕方がないとしても、あきらめるのは早い。はじめるのに遅いということはない。考えたら体力や健康面でも同じことができますね。本年もよろしくお願いいたします。

来者可追

渡辺明子

先日、お芝居を観てきました。久しぶりに小劇場。せま〜い客席にむぎゅっと詰め込まれて2時間。お尻が痛くなったけど、間近で役者さんたちの熱演を観ることができて満足でした。面白かったし。固まった足腰をさすりつつ上機嫌で帰路についたのですが、そういえば以前は、休みごとに映画だ芝居だコンサートだと忙しく飛びまわっていたなあ、などと思うにつけ、長いこと友達と遊びに行ったりもしていないわ、と遠い目をしてみたけれども、そもそも仕事と必需品の買い

物以外で外出したのっていつだっけ、と自問するも記憶になかったりで、近頃の自分のあまりの停滞ぶりに愕然としたのでした。だめじゃん。

話題のノンフィクション『謎の独立国家ソマリランド』そして海賊国家プントランドと戦国南部ソマリア』がとても面白かったです。ソマリア？ってアフリカ？内戦？海賊？と地理にも政治にも国政情勢にも疎い私でも、するする読めました。複雑な歴史と現状、社会システムなどがわかりやすく書かれていて、著者と現地の人々とのやりとりは爆笑につぐ爆笑。

会ったこともないソマリの人たちに妙な親しみを感じてしまいました。とにかく出てくる人出てくる人、過剰にポジティブで生命力ありすぎ。陽気で、楽観的で、図太くて、したたかで、たくましくて…ステキな人たち。ニュースで見聞きする「危険なところ」という情報も事実なのでしょうが、それだけではないのですね。

こういう本を読むと、くだらないことでうじうじうじ悩んだり考えたりしているのがバカらしくなっちゃいます。そんな自分にひとこと。見るまえに跳べ。あ、だからってソマリランドにもソマリアにも行きませんが。

猪爪奈美恵

あけましておめでとうございます。今年もよろしく願いいたします。

これは戦国武将伊達政宗の言葉で「一品でも自ら盛るならば、それが最高の馳走である」と続きます。政宗は大変なグルメで献立を2時間かけて考え、自ら腕をふるうこともあったそうです。また、様々な家臣を食事に誘い、その好みに応じた食事を用意したとか。料理は家臣との信頼の絆だったのです。でも主君にそこまでされたらかえって恐縮してしまい、せっかくの料理もろくに味わえなかったかもしれませんね。そして江戸幕府に対する戦略のひとつとしても料理を使いました。その名も「高級食材送りまり作戦」

謀反の噂が絶えなかった政宗はオットセイのたたきや子籠鮭、鶴など珍味や高級食材をこれでもかと献上してそれを払拭させていったのです。

料理の力ってすごい。美味しいものは人を幸せにしますよね。私はどちらかというと作るよりも食べるほうが得意なので、見習いたいものです。もちろん、この先謀反を疑われることはないで、おもてなしの心のほうですよ。

さて、政宗はその波乱万丈の人生の中で何度か命の危機があったのですが、その度に奇

抜なアイデアと度胸で切り抜けています。鶴鶴の花押の話が有名ですね。私はこの話を読んだ時「嘘だあ」と思いましたが、真偽はともかく政宗ならやりそうだと思うほどの人物だったということなのでしょう。他にも魅力的なエピソードがたくさんあるのですが、その中でも私が一番好きなのは瓢箪から駒のお話ですね。ぜひ読んでみてください。思わず「よっ！伊達男！」と言いたくなること請け合いです。

「人生楽しまずしてなんとする」これも政宗の言葉です。その言葉どおり、戦いの中にあつて、和歌や書の腕前は一流、茶道などもたしなむ風流人でもありました。

私もこれから年を重ねてゆくなかで、心が貧しくならぬよう、そして伊達男ならぬ伊達女になれるよう日々精進していきたいと思います。とりあえずはお正月に伊達巻を食べることから始めてみよう。

竹内良枝

寒がりなくせにたいした暖房器具をもっていない。部屋が乾燥なくていいよと友人に勧められたオイルヒーターは居住空間の狭まりとともにいつしか洋服置き場となり、いまはホットカーペットだけが頼り。手の届くところに熱い紅茶のポットとマグカップを置いて、べったりと床にはりつく。上に毛布もかぶって右に左にと網の上で焼かれる魚のように向きを変えながら本のページをめくる。ぐうたらさに感じる少しの背徳と大いなる至福。冬の愉しみ。

子どもの時は家にこたつがあった。夜が深まるとひとりまたひとりこたつから抜けていき、いつも最後に母と私が残った。小さい時から寒がり、温度調節を強にしては首まで中に入れてぬくぬくしている私を母は「風邪ひくから布団

で寝なさい」と睨んではこたつから追い出す。その後温度を下げて「仕事をするから」と、あたたかな床世界を独占してしまう母をずるいと思っていた。そのまま眠っていることも多かったから。

「冬の本」という本をばらばらとめくっている。作家、エッセイスト、装丁家、書店員、ミュージシャンなど、さまざまな84人が「冬」と「1冊の本」をめぐる綴ったエッセイ集。小ぶりのサイズが床読書(?)にふさわしく、84人の描く冬景色を少しずつ辿っている。自分のあたたかな床世界を手に入れた今なら解る。おそらく母はひとりの時間が欲しかったのだと。冬という季節は誰かと語らったりくっついていたりしてあたたかな気持ちになりたいのと同じくらい孤独な時間も欲しくなる。冬枯れの枝たちが春に芽吹く力を静かにためこむのと同じように。

とはいえ、春があまり得意ではない。いつもふわふわした気候と街の空気に翻弄されているうちに季節がうつろってしまう。冬来たりなば若葉の頃遠からじ、ぐらいな気持ちで過ごすのかな、今年は。「冬の本」の表紙の、和田誠が描いた男性のようにむくむくに着込んで、でも雪の中ではなく床の上でワンダーランドを愉しみながら。

高田敦子

古本浪漫洲

Furuhon-Romansu in Subnade

2014.1.10(fri)-1.30(thu)

新宿サブナードの一角、小さなスペースの販売イベント。話題の本から懐かしい本まで、文庫や雑誌をたっぷりご用意しました。

そして、お薦めの書物をお楽しみください。

新宿サブナード2丁目催事場

10:00～21:00

(初日は11:00オープン)
(最終日は20:00クローズ)



Part 1 10日(金)～14日(火) 5日間
岡田書店 げんせん館 球陽書房 藤井書店
Part 2 15日(水)～18日(土) 4日間
久保書店 がんどう 山本書店 げんせん館
Part 3 19日(日)～23日(木) 5日間
新日本書籍 れんが堂書店 小野田書房 R.S.Books
Part 4 24日(金)～27日(月) 4日間
坪井書店 中央書房 藤井書店 がんどう
Part 5 28日(火)～30日(木) 3日間 全品一冊300円均一

読み終えた本をお売りください。

新刊から和本まで1冊から買取いたします。
蔵書整理・出張買取などお気軽にスタッフまでご相談ください。

買取歓迎ジャンル

●文庫(国内作家・推理小説) ●美術展カタログ
●芸術関連・読み物 ●演芸・落語・講談関連
●思想・哲学 ●戦前の雑誌 ●歴史関連・読み物
●江戸東京関連全般 ●趣味の本
★本という形に限らず、印刷物・版画など
さまざまなものも取り扱います★



「えぼっく」はR.S. Booksと金井書店各店舗にて無料で配布しております。
遠方にお住まいの方で購読をご希望の方には5号分単位にて承りますので送料として400円分切手を下記までお送りください。
なお、「えぼっく」は不定期刊行ですので発送も発刊時となりますことをご了承ください。

えぼっく
郵送のご案内

申込先 〒161-0032 東京都新宿区中落合4-21-16
金井書店営業本部「えぼっく」係